



MATSUZAKI ROMAN

街中散策で松崎ロマンを感じる

小さな町には素敵な魅力がいっぱい。
ゆっくり歩いて、立ち止まって寄り道して…。
松崎ロマンを感じながら散策してみてください。



国指定重要文化財「岩科学校」

明治13年(1880)に建てられた旧岩科学校は、社寺風の趣きを取り入れた和洋折衷の学校建築で、伊豆地区では最も古く、現在は松崎町が管理、館内を見学することができます。玄関上に掲げられている「岩科学校」の扁額は、時の太政大臣(現在の総理大臣)三条実美の筆によるもの。また、外装の白壁には「なまこ壁」を配し、2階「鶴の間」と呼ぶ和室には、郷土の名工・入江長八に依頼、日の出を表現した紅色の床の間をめざし、千羽鶴が青い空をバックにいっせいに飛翔する光景が、しっくり壁面で描かれています。

時間 9:00 ~ 17:00(年中無休)
料金 大人 300円、中学生以下無料
電話 0558-42-2675

伊豆の長八美術館

ひときわ目立つ白い建物で「しっくり芸術の殿堂」と呼ばれる伊豆の長八美術館で、昭和59年(1984)にオープンしました。漆喰銀絵の名工・入江長八の作品を中心に展示されています。建設には全国の名工を総動員し、現代左官技術の粋を集めて完成しました。設計は建築家・石山修武氏が担当、昭和60年(1985)には建築部門・建築関連美術部門における優れた作品と制作者を表彰する建築界の吉田五十八賞に選ばれています。

時間 9:00 ~ 17:00(年中無休)
料金 大人 500円、中学生以下無料
電話 0558-42-2540

浄感寺・長八記念館

阿弥陀如来を本尊としてまつ浄土真宗本願寺派のお寺。弘化4年(1847)建築の本堂は、「長八記念館」になっており、名工・入江長八の作品とともに、堂宮彫刻の名匠・石田半兵衛作の唐獅子が見もの。長八の墓、記念碑、胸像もある。長八31才の頃、弘化2年(1845)浄感寺再建にあたり、学び育てられた御恩返しの一つとして、御恩報謝の念をこめて、本堂内陣、天井の雲龍をはじめ、漆喰細工飛天等、いくつもの力作を残しました。

時間 9:00 ~ 16:00(不定休)
料金 大人 500円、中学生以下無料
電話 0558-42-0481



1. 石畳の小径沿いに続くなまこ壁の建物。 2. 明治時代の商家「中瀬邸」。 3. 中瀬邸前に立つ時計台。 4. なまこ壁の漆喰装飾が施された「ときわ大橋」。 5. 街中散策の途中で足湯でひと休み。 6. なまこ壁の古民家「伊豆文郎」。 7. 国指定重要文化財「岩科学校」。 8. 伊豆の長八美術館。 10. 長八記念館「雲龍」(入江長八作)。 11. 長八記念館「飛天」(入江長八作)。

なまこ壁って何？

なまこ壁の街並みとなまこ壁の保護・修復活動

まちなかを歩くと、あちこちで白と黒のコントラストがモダンな建造物を見ることが出来ます。平瓦を壁に貼り付け、目地をしっくりで海にいる「なまこ」のように盛り上げるスタイルから「なまこ壁」と呼ばれています。防火性・保温性・保湿性に優れ、明治時代から昭和初期まで各地で見られた外壁の工法ですが、老朽化や建て替えなどで年々減少。現在では伊豆ではここ松崎町と下田市、全国では岡山県倉敷市や広島県東広島市などに見られます。松崎町には今も190棟余り残っており、昔ながらの趣を留めています。

全国でも希少となったなまこ壁。町では重要資源と位置づけ保存活動が活発です。今でもなまこ壁を作る左官職人がいて、修復を行うことで技術伝承や町並みの整備を行うとともに、地元有志による「松崎蔵づくり隊」が保全・啓発運動を進めています。当たり前のように存在するなまこ壁ですが、その陰にはこうした職人と町民の「地域資源を未来に残したい」という想いと努力があるからこそ残していけるのです。



桜葉の塩漬け

和菓子の桜餅を包むのに用いるさくらの葉の全国需要の7割は松崎町から出荷されています。使われるのは大鳥桜。50枚を1束にして、半年から1年間にわたって塩漬けされ完成します。全国各地にも出荷されていますが、地元松崎でも桜葉餅などに使用され人気。各店少しずつ違った味を提供しています。

松崎名物 桜葉餅



MATSUZAKI TOWN MAP